

## 「都会の生徒に日本農業をどう教えたか？」 1991.8.1

砂金健一

### はじめに...

このレポートでは「都会の生徒に日本農業をどう教えたか？」と報告したい。本校では、日本地理は産業別の学習で進めているが、中1の地理の授業への導入の教材としては『沢内村』の学習を行なっている。そして、その次にくるのが農業学習である。そのため私達は、生徒に「地理の授業にどんなイメージを持たせるのか？」という点できわめて影響が大きいと考え、農業学習は特に重視してきた。

ここでは、

#### (1) 本校の地理学習の進め方

- a) 主体的な学習を成立させる為の方法と工夫（レポート学習、消費者としての関心）
- b) 地理を好きにさせるために（VTRを活用した授業）

#### (2) 日本農業で何を学ばせてきたのか？

- a) 賢い消費者になるために→消費者としての関心（日本の食糧はどうなっているか？食品？）
- b) 農業行政はどうなっているか？→政治への関心（戦後の農政と現在の問題点）
- c) 日本の農山村で何が起きているか？→生活者としての関心（後継者問題や抱えている諸矛盾）

#### (3) 今後の課題としている事

- a) 農の心と営みへの注目→人間としての共感と行動（農の営みは食糧生産という人間と原点）
- b) 環境としての農山村→人間らしさを取り戻す場という認識（3K産業・農民像に対するイメージの一新）
- c) 農業の存在と環境保全→農の営みの多彩な機能への関心（リゾート開発に対置する農山村のあり方）

以上の内容をレポートします。

### 実践を振り返って

毎年、生徒達は「地理嫌い」「社会嫌い」になって入学してくるものが大半である。それは、生徒の書いた感想文にも表れている。資料1 < A > 参照

これらの感想文は、「一年間の地理の学習を振り返って」を言うテーマで生徒が書いたものなので、これを通して中等部の主体的な学習の成立という観点から社会科の授業の点検を試みたい。私達は、「考える社会科」をめざし、生徒を「やる気でガンバ！」できる生徒に育てることを目標にして来た。しかし、正直に言って、社会科嫌いを何とか社会科好きにさせたいという気持ちと位置付けが先行して、「何をやる気でガンバするのか？」生徒にどんな力をつけるのか？」という掘り下げや、それらを考える前提となる今日の生徒

の現状分析は不十分だった事を認めざるを得ない。しかし一方で、ここ数年の実践の中で生徒達が地理好きになり、現代の社会の動きや出来事に興味・関心を持つように変化したのは感想文にも表れているようにまぎれもない事実である。資料1～3 < B > 参照  
私達としては、いくつかの好ましいと思える生徒の変化の事実から出発して、「望ましい社会科（ここでは地理）の授業とは何か」を考えてみたい。

## どのようにやる気でガンバさせるのか？ レポート学習とVTR授業 etc

私達は、地名・物産などの暗記中心の社会科が社会科嫌いの生徒を大量生産していると考えた。暗記中心の社会科では、生徒達はどうしても「与えられた教科書を勉強する」という受身の姿勢にならざるを得ない。だから私達は、生徒達が本当の意味で学習の主体者となりうる学習をどのように成立させるのかを第一の課題としてきた。そして、最初にとりくんだのが「レポート学習」だった。これは、生徒自身に自分で課題（テーマ）を発見させ、自分の力で調べ上げ、自分の頭で考え、自分の言葉でレポートにまとめあげさせていくという「人間としての総合的な力」を丸ごと要求する学習である。

この「レポート学習」においては、学習の主体者は、明確に一人一人の生徒であり、教師は一人一人の「こだわり」に対するアドバイザーの一人にすぎない。なぜなら、生徒は、足・TEL・手紙などを調査に使うなかで周囲の色々な大人達のコメントやアドバイスを貰ってそれらも参考にしているからである。

この学習スタイルが、生徒を成長させる力には計り知れないものがある。それはレポートを書き上げる為には日常のペーパーテストによる点数評価では測定されない能力が生徒に要求されており、レポート活動がいわば隠れていた才覚を発揮する舞台ともなるからである。そして、それは自分の中に新しい力を発見した喜びとして生徒の感想文の中にも表れている。資料4 < C > 参照

この自分の力を発見したり、再認識することによって「自信」が生まれる事の教育的意味はきわめて大きいといえる。そこで教師としては、アドバイスと評価は生徒一人一人に応じて、自分の力の発見や再認識を促すポイントを押さえるように努めている。

しかし、レポート学習がどんなに主体的な学習法として有効であるといっても「授業と通して何をつかませるのか？」「生徒は授業で何を学習するのか？」という問題こそが、教師が避けて通る事ができない本流の問題であるはずである。

そこで、私達は生き生きとした学習を授業で成立させる為に学習テーマに関わる VTR 映像の活用 etc を位置付け取り組んできた。資料6 参照  
それらは、感想文を読む限りでは生徒の地理の授業のイメージを一新するのに成果をあげてきたように思う。

生徒のやる気になった授業とは？

まず、私達の授業実践の経験の中から、生徒が目を輝かしてやる気になったり、生き生きと頑張ったりしたときはどんな教材をどのように扱った授業だったかを振り返ってみた。（生徒の反応から考察）そして、気が付いた主な点を列挙すると次のようなものとなる。

#### A 形式面で見ると

- (1) 教室への実物や生の資料の持ち込みは、生徒の新鮮な興味を呼び覚ます
- (2) 視覚や聴覚に訴える VTR 教材は、生徒のイメージ化を容易にする。
- (3) 意見や質問の形で仲間の発言が活発になった時、生徒は引き込まれる

#### B 内容面で見ると

- (1) 人間として生きることへの共感を呼ぶもの（生活や労働の姿がイメージできる教材であること  
例：沢内村、大潟村、パイロットファーム、鮎川町、原発労働者 etc
- (2) 自分との関わりが明確であるもの（健康や生命、家族の生活に結びついている教材）  
例：農薬・有機栽培、産直・顔の見える関係、放射能、会社人間 etc
- (3) 今日の社会的な課題としっかりとかみ合っているもの（頻繁に新聞記事や TV ニュースとして報道されるので、そのたびに学んだ事が生きるとような教材  
例：後追い行政、ゴールなき拡大の道、農産物輸入自由化、都市農業と宅地並課税、公害輸出、地球規模の環境破壊、企業城下町、ハイテク産業と水汚染、繁殖漁業と TBTO etc

この(3)はひとくちに言えば、タイムリーであり、且つ「真の豊かさとは何か？」「人間らしい生き方とは何か？」「人間を大切にす政治とはどうあるべきか？」「弱者より企業利益優先の行政はこれでいいのか？」日本企業はアジアで何をしてきたか？また、現在何をしているか？」というような人類の努力の成果としての幸福追求の権利(弱者の人権)に関わった問題だといえる。

つまり、人間としての当然の願いが今なお、踏みにじられているという現実、現代になって新しい不幸として引き起こされてきている生活の破壊、地球的規模の生命の危機 etc をとりあげ、その中で人々の生き様に目を向け、考えていける教材である。

以上、内容面の(1) (3)をみると次の事がいえると思う。

授業の中で与えられた教材から、生きた知識(自分とのかかわり、人間としての共感につながる)を得ることによる「知る喜び」の体験は、何人もの生徒を主体的な学習者に変えた。生きた知識は、ある種の展望を与え、やる気を刺激し、「考えること」を通してまさに「生きる力」を湧き上がらせるものである。それは、生徒の感想文にも表れている。

#### VTR の活用

私達の授業では、VTR の活用がその特色といえるが、その授業形態をとることの意味を次に考えてみたい。単に、その形式の目新しさによる生徒受けを狙っているわけではない。しかし、多くの生徒にとって、わかりやすさという点でとっつきやすいのは事実である。

つまり、入り口に呼び込みやすいのである。一步踏み込ましたら、後は内容と授業展開で勝負である。そこでは「生きた知識」をえることによる学習の面白さをどこまで生徒達に体験させる事ができるかが、まさに授業の質を表すのである。

VTR は、生徒の学習内容のイメージ化を助ける。しかし、VTR を使う事よりも、その映像がどんなシーンを映し出し、どんな人物が何を語るかこそが重要である。私達が編集した教材であっても、TV 番組をそのまま教材としてつかったとしても、教師が発問や助言そして説明によって、生徒達に何を考えさせようとしたのか、あるいは考える為の材料とさせようとしたのか、その授業のテーマとの関わりこそが重要である。

つまり、先にあげた内容面の(1)(2)(3)を含んだ授業である事が授業の質にとって決定的に重要である。(例: 美味しんぼの活用)であるがゆえに、生徒の授業に対する面白がり方も私達は十分に吟味する必要があるといえる。

## 地理学習の面白さをつかむとは？

では、そのような吟味を行なう時のチェックポイントといえは？一言でいえば、生徒の心の中に、「課題」や「こだわり」として残るものがあつたかどうかである。そして、自学が始められたかどうかである。

生徒の興味がそのときだけに限られずに、その後も自分で糸をたぐりはじめたようなら本物の面白さをつかんだと評価して良さそうだ。それは、今日のような世の中の動きに対し自分なりの「こだわり」と「関心」をもち、共感・批判・疑問などの中で自分の考えを形成していく力を身につけさせることこそが、本来の「社会科」の目標と考えても良いのではないかと思うからだ。人類の進歩の方向に背を向け、国家(その時の権力者)にただ言いなりに追従または迎合していくような、自分で思考しなかつたり「長いものに巻かれる」式のものの考え方は、国民主権を担う主権者にふさわしくないのは明らかである。人類は、今人類そのものの存亡にかかわるたくさんの課題を負っている。その中には、先進国の国家エゴによる資源浪費や公害輸出、先進国資本による開発の名での環境・生態系破壊があり、軍拡による核の恐怖、権力による情報操作、国民の不満反らしの為の退廃文化の氾濫など資本の利益を優先する国家権力のさじ加減一つで国民の生命・健康・精神が広く蝕まれる上古湯の拡がりがある。

だから、そのような課題に立ち向かう21世紀は、特にその前半は人類史上最も重要な時代になる半世紀だといえる。人類の英知がまさに発揮されなければならない時代だ。その時代にふさわしい英知を身につけた人間を育てるのが今の教育の役割だ。偏狭なナショナリズムや「24時間働けます精神」でなく、本物のヒューマニズム、人間への深い愛情・共感にあふれた感性、科学的分析力、生きることへの誇りを身につけた子ども達をしっかりと育てる事が教育なのだ。公教育の「公」とは、国家でなく人類ととらえた方がふさわしいのだ。社会科教育の目標もおのずからそこにある。

## 1. はじめに・・・都会育ちの私がどう農業を教えてきたか・・・

私の学校の生徒達は、約半数が都市の住宅地や商業地、残りの半数が都市化が進みつつある地域からの通学者である。「つくる人」から切り離された「食べる人」として生活している。

20年前に地理の授業も担当する事になった時、なかなか地理の授業のイメージがつかめず、指導書代わりのようにつかわせてもらったのは「授業の為の日本地理」「授業の為の世界地理」の二冊であった。

地名・物産の地理でなく、人間の登場する地理、社会の矛盾を直視する授業を心掛けようと思ったとき「何をどのように扱っていくのか」を示唆してくれたのがこれらの本であった。しかし、授業はその内容の「注入」とどまっていた。特に、農業の分野はそうであった。都会育ちの私にはその労働そして生活がどうしてもイメージできなかつたし、自分で現地に行って確かめ・深める行動をほとんどしなかつた為、本の内容以外のことを教材化しようにも出来なかつたからである。

## 2. どんな「農業の現実」を取り上げてきたか？

そんな授業をしているうちに、日本の農村の危機はますます深刻化してしまった。「国際分業」の名のもとに大資本(工業輸出)のために農業を犠牲とする事を「国益」とする政策が新たな形で進展したのだ。農業の直面した困難は、何よりも嫁不足・後継者難という自体となって表面化してきた。それは、日本農業の将来展望のなさに起因するといわれる。(でも、本当にそうっていいの？)

一方、工業優先社会の中で学ぶ農業の姿として取り上げてきた事は、「三ちゃん農業」「豊作貧乏」「機械化貧乏」「減反政策」「生産者米価値下げ」「食生活の米離れ」「出稼ぎ」「ゴールなき拡大の道を歩んだ結果としての破産農家」「連作障害」「嫁不足」「猫の目農政」「食糧自給率の低落」etc のどれをとっても日本農業の現実には違いないが、何しろ暗いイメージが付きまとう。教材としてはこれだけでいいのだろうか？私の経験からも、学習の結果として、多くの生徒達は農民に同情し、国の政策に疑問を持つが農業をやってみたいとは思わないのだ。

## 3. 主体的な農業学習

そこで、生徒にとってはどこか他人事になってしまっている農業学習を寄り主体的なものにするために、私達が試みてきたのが『食の安全』に目を向けさせ生徒の消費者としての関心から農業に関心を持たせようという狙いを持つ実践であった。ここについては27回大会のこの分科会で報告させていただいた。

その後も農業学習の切り口として位置付けて、産業別学習の導入時にこのテーマで行なっているがそれ自体は「農業のあり方に目を向けさせる」という意味では狙いどおりの効果を発揮している。自分で選ぶ農業レポートのテーマの約半数は『食の安全』に関わるものである事もそれを示している。しかしながら、全ての学習を終えても、最後まで消費者としての関心(エゴ?)=賢い消費者になろうというところにとどまってしまうものが大半である。レポートで成功した少数の物を除いて。これは教材自体に問題があるといえる。つまり、VTRの「野菜が危ない!(なんとって好奇心:フジTV)」に登場するこだわり頑

固オヤジ(有機・無農薬にこだわっていた農民)に共感していた生徒に対して、私達がそれ以上の教材を探し当てる事が出来ないで今日に至っているからそれは当然なのである。27回大会の議論の中で、指摘を受けた『農業労働』をどう扱うのか?についても、扱えば扱うほど農業労働と生活の厳しさを強調してしまう結果になってしまうため、3K労働のイメージから脱皮させるような授業とはならないのである。

#### 4. 生徒の労働観・職業観に迫るには、どんな農民像を取り上げたらいいのか?

果たしてこれでいいのだろうか?生徒の意識の根底には、「エリート校から一流大学そして大企業への就職というコースこそが将来の豊かな経済生活=華やかな将来の幸せを保証される間違いのない道である」という観念が横たわっている。

それと同時に、農業・農民に対しては生徒達は差別的職業観を持っていないだろうか?いや、もたされていないだろうか?「きつい労働」そして「衰退産業」や「いじめられっ子産業」としての暗いイメージを授業で学ぶごとに刻み付けられていないだろうか?今でも、一般的に「田舎者」とか「どん百姓」とかいう蔑視を込めた表現が使われることや3Kを嫌う風潮や労働観を思うと的外れな推測ではないはずである。

ときたま、報道されるような「自由競争どんとこい農民」の姿もあるにはあるが、それは儲け仕事として農業に取り組む姿であり、金儲けの手段としての農業である。そう言う意味での農民の意欲的な姿は、何も農業でなくてももっとスマートに気楽に金儲けができる仕事はあるさという捕らえ方をする生徒の職業観と気分を覆すのには役に立たないようだ。

だとしたら、地理の授業はどんな「教材」を通して、そこに迫ったらいいのだろうか?従来のように「日本の農村の矛盾を直視して、その実態を、学ぶ」ということでとどまっ

ていていいのだろうか?もっと生き生きとした農民の姿=「百姓」とは何かを誇りを持って自分の言葉で語りきってしまう槌に根を張った農民の姿、都市の人間をある意味では哀れんで見つめる目を持ったどっしりした農民の姿も描く必要があるのではないのか。

人間らしい生活・豊かさとは何かの問い直しであり、農民の生活の中に人下の生活が失われているものの発見と生業としての農の営みに対する人間としての共感を探るのである。

そして、そのような授業を組み立てる為には何が必要かといえば、そう言う農民にまず私が出会うことがそのような授業を構成するための前提になるのではないかと考えている。地理の教師は農村を歩かなければならない、さらには土に触れなければならぬ、そんな時代がきているように思う。

#### 以上の問題意識から取り組んできたこと

- 1) その中1の生徒達にも夏休みを利用して、農民の生の声を取材してレポートにまとめる課題にチャレンジさせてきたが、ここ3年はできるだけ「有機栽培や減農薬・無農薬栽培」をおこなっている農家や「産直」の取り組みをしている農家への取材を生徒にすすめている。どのような農民との出会いがあるかは、それによってそのレポートの質が決まってしまうともいえる程重要であるにもかかわらず、偶然性に

左右されているのが現実である。

2) 「土は緑を歌う」農村映画協会製作のVTRを教材として、ヨーロッパの家族農業の姿を取り上げ描いてみた。

\* \* ヨーロッパの家族農業は、ハンディキャップのある山間地の農業でも「景観の維持」「水や地力の維持」「緑の保全」etcの環境保全の役割を果たしている事を認められており、その農業が持続するように補助金も出ている。

\* \* ドイツの市民農園の位置付けとその様子の中に、都市の人間が失っているものの認識とそれを取り戻す為の都市計画の中での配慮がうかがえる。

\* \* ヨーロッパには、農業は人間の命を生み育てる土台となる仕事であり、農村は都市に住む人間が生命の洗濯に家族連れでリゾートにやってくるような場所という位置付けがあって、農民(家族農業)と農村の誇り高い位置がある。

(VTR学習を終えた後、何人かの女子生徒が「ああいう農家だったら、お嫁に行って農業をしてもいいな」という感想をもらした。日本農業の学習では、ほとんど出てこない声である。)

3) 都会育ちの自分が市民農園を借りて汗を流し、生まれて初めて土つくりと作物物産の経験をした。これはママゴトみたいなものではあるが、いろいろと貴重な経験を得ている。土・水・風・草・堆肥・種・苗・小生物・道具・成長速度・旬・鮮度と味etc

\* \* これらを教案づくりにどう生かすのが、今後の課題。

## 昨年の東北で出会った農民のこと 資料4.5 参照

まとめ <農業を見るものさしの問い直し>

以上からいえることは、私の授業には重大な問題点が潜んでいたという事を生徒の反応が教えてくれたという事である。

日本の農業や農民のことを生徒に教える立場の私が具体的な農業の仕事や暮らしをちっとも知らない、余りにも知らなすぎるといことがあきらかになったのである。たとえば、「農業と環境保全」にしても、農業が環境保全に果たしている役割を体系的におさえて授業で取り上げ、整理して組み込んでいくことはもちろん必要だと思う。例えば、農林業が社会に果たす公益的機能として、水質源かん養、洪水防止、酸素供給、大気浄化、土砂流出防止、土壌浸食防止、景観の維持、快適性維持(精神の安らぎ効果)自然の教育力などなどについてだ。

がしかし、それはただの箇条書き的概念整理の説明としてではなくて、そこには必ず農民の営みと暮らしが具体的な姿で「環境保全の担い手」として、しっかりかけられる事がきわめて大切なのではないだろうか。農山村に暮らし、土を守る農民が、我々の生きる環境をささえているその姿が生き生きと描かれる事によって、生徒たちの中に農業そのものに対する捕らえなおしが呼び起こしてされていくのではないだろうか?そこには、儲け仕事ではない生業としての農業にこだわる「家族農業」の姿が、登場してくる必要があるのではないだろうか。

本校のように都市にすむ生徒達は、余りにも暮らしが自然から切り離されている為、暮らしを「他人任せ」にされてしまっている生活をしている事を思うと生産労働にこだわる農家の家族労働の姿と暮らしぶりを書くことは、決定的に重要な事に思えるのである。

それだからこそ、日本にも農を生業として営む誇り高い農民達がいること、つまり、自給自足の延長線上で安全な農産物を生産し、食文化を営む農民がいること、これらの人々を人間らしい生活を限りなく希求している人々として、しっかり描ききる事が、農山村の果たしていくべき役割と新しい農民像・人間観をつかむポイントとなるのではないか。

小農に対し暗に離農を促す国策に静かに抵抗し、兼業化してもなお表土を守りつづけようとする小農こそ、これからの環境保全型農業の担い手としての大きな役割を果たす存在なのではないだろうか？

そういう点でいえば、今まで私は、専業農家の減少をどのように評価していただけるか、また、兼業農家に対してはどのような評価をしていただけるか？私は、統計的な数値を眺めて、第二種兼業農家の増加や専業農家の減少を否定的なマイナスのイメージでとらえていたのではないだろうか？この点についても、国策に逆らって、離農を嫌い、土を守りつづけてきた定住を願う農民や兼業農家の自給自足の姿に対しての評価は「職の安全や環境保全に果たす役割」の観点からとらえ直しを要すると思える。

また過度の農業の機械化がすすめられる中で邪魔者扱いされ、生産労働から遠ざけられてきた老人・子どもの役割の復権のありかた、そして第二種兼業農家の主な労働力である婦人の活躍にも大いに注目してみたい。

私は、石筵に見られるような経済的合理性とは全く異なった価値観に立つ農業観こそが、今求められているのではないだろうか？そして、それこそが『環境保全型農業』と呼ばれるもう一つの農業の姿ではないだろうか？と考える。

戦前に550万戸を数えた農家数は、基本法農政の下で高度成長以降の兼業化の波に洗われたとは言え、今なお400万戸もあるといわれる。生まれた土地で好きな農業をこれからも続けたいという土着の小農民の願望が、そこにはあらわれているのではないだろうか。今、大切なのは、農業の資本主義的発展とは違う価値観を持って、農業にこだわっている人々の存在と願いに注目する事ではないだろうか。言い換えれば、子から孫へと永い年月をかけて丹念に土を耕して農地をつくりあげてきた「生業」としての農業のあり方に光をあてることではないだろうか？

とすれば、そういう農民にまず私が出会うことがそのような授業を構成するための不可欠の前提になるのではないかと考えている。それはなぜかといえば、その農民達の姿をイメージとして十分に生徒に伝える為には、より具体的に色々な側面から描く必要があると思うからである。つまり、そのような農民達との出会いによって、教師自身がある種のカルチャーショックを感じるほどに、自信が知らず知らず身につけてしまっていた価値観に揺さぶりを受ける体験がそれらを教材化するためには有効だと思うからである。

そして、教師自身が自分の出会った生業としての農の営みやその語りに対する思い入れを生徒に対して、自分の言葉で語り、問い掛ける事が、まず第一歩となるのではないかと。さら、そういう教師自身の足を使った努力が今こそ求められているのではないのかと思う。つまり、ある地域の農家といっても一軒一軒経営の中身は違うのだ。



農業に風当たりが強くなった今日にあっても、なお一生懸命に表土と暮らしを守って頑張っている農民達が各地にいるはずであり、何故頑張っているのか？どう頑張っているのか？どのような展望を持っているのか？などなど生徒達の「農村観」「農民観」に迫る授業を造っていく為には、それらの農民・地域の営みを一つ一つ具体的におさえていく必要があるのではないかとおもうのである。そういう点で私自身が漠然とした観念だけで具体的に何も知らない、語れないというのは、大変大きな問題だと思えてきたのである。

## 最後に・・・

私自身に農村での暮らしや農業労働の体験がないにも関わらず、農民の暮らしや労働について教えなければならない。しかも今きわめて日本の農業は危機的な状況におかれている。そして、農家や農山村の存在が日本の国土の水や緑や土を守っている。それは私も理解している。しかし、農業や農村という時、そこには、「働き」「暮らす」人がいる。

今日、中1の地理の授業では、そのどのよう人々のどのような姿を描いたらいいのだろうか？

農業や農村を十分に知らない私のような教師が今日の日本農業について、どのような授業をしたらいいのか？

このレポートでは、私なりの今までの実践を踏まえて、今考えている事を述べたつもりです。基本的なおさえ方の誤りがあるようならご意見ご批判をいただければ幸いです。

## 1989年度 <生徒の感想>

### 一年間の地理の授業と学習を振り返って

<A>

#### 1A Kさん

ハッキリいって、私は小学校の時の社会はダーイッキライでした。政治の話とか、むずかしくて興味ないことばかりだったからです。でも、今の地理はいろいろ今の時代の社会問題などを教えてもらえるのでとても面白いと思います。中でも興味があるのは「農業」のことです。野菜の話とか面白かったです。でも、テストはイヤでした。その前まで授業でも先生が黒板に書いたことしかルーズリーフに書かない人でした。でもパイロットファームとかその辺の時に先生が「先生の話も要点をまとめてちゃんと書きなさい。」とおっしゃった頃から少しずつ努力してまとめるようにしていきました。おかげで3学期のファイルはルーズリーフもいっぱい書いてだいぶ書けるようになってきました。

#### 1A Iさん

私は小学校の頃から地理はあまり好きではなかった。それはただ教科書にのっていることを先生が説明してそれを暗記するといった事がつまらないと思っていたからです。だから、授業中も態度は良くなってレポートもあまり良い点がもらえなかったが、二学期の成績がとて悪かったので三学期授業を集中して聞いてビデオも熱心に見るようにしたら、地理がとても面白いと思うようになった。特にビデオは色々な産業の裏までが見れて、とても興味深いものばかりだった。先生のお話も面白いし、今までもっと熱心にやればよかったと思った。毎日地理があってもいいと思うくらいだった。地理の授業は私にとってとても素晴らしい授業だと思う。

### 1 B N君

ビデオを見ながらやるとすごくいろいろなことがよくわかりました。小学校のときは嫌いだったけど中学になって社会が大好きになりました。

### 1 B Na君

始めの内はいいやいややっていたけれど今は授業が面白くなってきたし小学校のときとちがってビデオもよくみるから授業が分かりやすい。ビデオの途中で説明も入れてくれるし、プリントのかきこむところも、ビデオで教えてくれて分かりやすい。授業で「おしんぼ」がみれるなんて、思ってもいなかった。

### 1 A S君

僕の考えていた社会の授業とは全く違っていた。授業のほとんどがビデオで小学校の頃考えていた暗いイメージはまったくなかった。ファイルをどんどんためていっていつの間にか厚くなったのを見るとなんとなく「嬉しい」という感情にひたっていた。

## < B >

### 1 A Mさん

今年一年間、地理はとても面白かった。今までの社会科は何年も前の教科書を使ってそれだけを覚えテストをただけだった。今から考えると自分はバカげた事をしてたと思う。世界・日本の動きは毎日毎日少しずつ、今現在だって変わっているのに何年も前の事などあてに出来ないと思った。この一年間で真の社会科を学んだと実感している(ちょっと大げさ・・・)ますます地理が好きになり、また興味を示すようになった。テレビだって最近ではNHKなど良く見るようになったし、新聞だってよくみるようになったし・・・。それらを見て習っている事が出てきたときはとても嬉しく思う。本当に今のことを勉強しているんだなって感じる。テストでも記号ばかりのありふれたテストでなく、こうして自分の意見を書く欄もあるし、おまけに点数にはいっちゃうのだし・・・なんと嬉しい科目だろうと思う。感謝感激でいっぱいあります。二年になったら歴史を習うと聞いたが、これも今までの勉強方とはちがうのかな、何て今から楽しみです。父や母にも知らないこと教えてあげてスーパーも一緒にいって買って良いものと悪いものを習った事を思い出していってあげるんですよ。そうするととても気持ち悪がるけど・・・とにかく中学の地理は生活にも役立つことを発見しました。

### 1 A Hさん

ビデオ学習の中でどのテーマでもいつも感じてきたことが一つあります。

「便利なものは危険だ」

私達が日常使用している様々なハイテク製品、裏を返せば様々な問題を引き起こしているわけです。原発だってそうです。ソ連が誇るチェルノブイリは二回の大爆発によって跡形もなく消え去りました。そして「恐怖」だけが残されました。放射能が世界中を恐怖へ突き落としました。薬漬けの食品もそうです。手軽でおいしい。でも実際は、私達の体をこわす危険物以外の何物でもないのです。この一年の授業を通して、本当に色々な事を学びました。新聞も以前にもまして大好きになりました。理解できる記事が増えました。教科書にはない新鮮さのあるビデオ学習は素晴らしいと思います。

## 1989年度 <生徒の感想>

### 一年間の地理の授業と学習を振り返って

#### <A>

##### 1 A Kさん

ハッキリいって、私は小学校の時の社会はダーイッキライでした。政治の話とか、むずかしくて興味ないことばかりだったからです。でも、今の地理はいろいろ今の時代の社会問題などを教えてもらえるのでとても面白いと思います。中でも興味があるのは「農業」の事です。野菜の話とか面白かったです。でも、テストはイヤでした。その前まで授業でも先生が黒板に書いたことしかルーズリーフに書かない人でした。でもパイロットファームとかその辺の時に先生が「先生の話も要点をまとめてちゃんと書きなさい。」とおっしゃった頃から少しずつ努力してまとめるようにしていきました。おかげで3学期のファイルはルーズリーフもいっぱいだいたい書けるようになってきました。

##### 1 A Iさん

私は小学校の頃から地理はあまり好きではなかった。それはただ教科書にのっていることを先生が説明してそれを暗記するといった事がつまらないと思っていたからです。だから、授業中も態度は良くなってレポートもあまり良い点がもらえなかったが、二学期の成績がとても悪かったので三学期授業を集中して聞いてビデオも熱心に見るようにしたら、地理がとても面白いと思うようになった。特にビデオは色々な産業の裏までが見れて、とても興味深いものばかりだった。先生のお話も面白いし、今までもっと熱心にやればよかったと思った。毎日地理があってもいいと思うくらいだった。地理の授業は私にとってとても素晴らしい授業だと思う。

##### 1 B N君

ビデオを見ながらやるとすごくいろいろなことがよくわかりました。小学校のときは嫌いだったけど中学になって社会が大好きになりました。

##### 1 B Na君

始めの内はいいやいややっていたけれど今は授業が面白くなってきたし小学校のときとちがってビデオもよくみるから授業が分かりやすい。ビデオの途中で説明も入れてくれるし、プリントのかきこむところも、ビデオで教えてくれて分かりやすい。授業で「おいしんぼ」がみれるなんて、思ってもいなかった。

##### 1 A S君

僕の考えていた社会の授業とは全く違っていた。授業のほとんどがビデオで小学校の頃考えていた暗いイメージはまったくなかった。ファイルをどんどんためていっていつの間にか厚くなったのを見るとなんとなく「嬉しい」という感情にひたっていた。

#### <B>

##### 1 A Mさん

今年一年間、地理はとても面白かった。今までの社会科は何年も前の教科書を使ってそれだけを覚えテストをただけだった。今から考えると自分はバカげた事をしていたと思う。世界・日本の動きは毎日毎日少しずつ、今現在だって変わっているのに何年も前の事などあてに出来ないと思った。この一年間で真の社会科を学んだと実感している(ちょっと

大げさ・・・)ますます地理が好きになり、また興味を示すようになった。テレビだって最近NHKなど良く見るようになったし、新聞だってよくみるようになったし・・・。それらを見て習っている事が出てきたときはとても嬉しく思う。本当に今のことを勉強しているんだなって感じる。テストでも記号ばかりのありふれたテストでなく、こうして自分の意見を書く欄もあるし、おまけに点数にはいっちゃうのだし・・・なんと嬉しい科目だろうと思う。感謝感激でいっぱいであります。二年になったら歴史を習うと聞いたが、これも今までの勉強方とはちがうのかな、何て今から楽しみです。父や母にも知らないこと教えてあげてスーパーも一緒にいって買って良いものと悪いものを習った事を思い出していってあげるんですよ。そうするととても気持ち悪がるけど・・・とにかく中学の地理は生活にも役立つことを発見しました。

#### 1 A Hさん

ビデオ学習の中でどのテーマでもいつも感じてきたことが一つあります。

「便利なものは危険だ」

私達が日常使用している様々なハイテク製品、裏を返せば様々な問題を引き起こしているわけです。原発だってそうです。ソ連が誇るチェルノブイリは二回の大爆発によって跡形もなく消え去りました。そして「恐怖」だけが残されました。放射能が世界中を恐怖へ突き落としました。薬漬けの食品もそうです。手軽でおいしい。でも実際は、私達の体をこわす危険物以外の何物でもないのです。この一年の授業を通して、本当に色々な事を学びました。新聞も以前にもまして大好きになりました。理解できる記事が増えました。教科書にはない新鮮さのあるビデオ学習は素晴らしいと思います。

#### 1 B M君

沢内村から原発まで役に立つ事をたくさん勉強してきたと思う。特に三学期に学習した戦後の日本についてなどは日本人の常識でありながら知らないところがたくさんあった。また、いろいろな事について幅広く学習したので小学校の頃、学習を少ししたものもあったがそれより知識が断然、豊富になった。また、ニュースなどを見ていてもいままで知らなかった用語を覚えられたのでよくわかるようになった。いままで勉強した中で一番興味を持ったのが鯨の問題で日本が損をしている面もあるということがわかった。一年間役に立つ勉強が出来たのが良かった。

#### 1 B Yさん

中学生になって初めて地域の人々の事や公害・農業・原発について詳しく勉強する事が出来ました。普段、私達はどんな事があっても何もやらないで、当人同士で決めれば良いという風になっていました。しかし、よく勉強してみると私達にも関係している事が多いのです。例えば、大潟村の「ヤミ米」です。生産者と政府の問題ではなく、「ヤミ米」を求めている消費者も関わっていくと思います。もっと、わが国で起きている問題を国民がじっくりと取り上げていくべきだと思います。自分達の国をもっと見つめていくべきだと思います。一番この一年で思ったことは「自然を大切にしていこう」ということです。再生のきかない自然だから自然がなければ人間は出来ないという事に少し気づきました。

#### 1 B Nさん

私は一年間やったことの中では水俣病や沢内村が好きでした。何か沢内村の人々はすご

いなと思います。村は今どうなっているかと思います。水俣病は初等部6年の時に一度勉強したので思い出せる部分もあって楽しかったです。でもプリントにも書いてあったのですが日本は公害を知らせるカナリアに似ているという事なのですが、なぜ公害が起こるのだろうと思います。水銀を海に流せばどうなるかぐらい工場の人たちにだってわかったと思います。もう少し色々な公害病について勉強したいです。

#### 1 A Aさん

この学校の地理は世の中に関する色々な事を勉強する、少し変わった(他にはあまりない)ものでしたが社会の為にもすごく役に立つ勉強の仕方だったと思います。特にビデオは一学期のものなんかもまだ頭にあるのでとてもよかったと思いました。

#### 1 A Ysさん

他の学校の子に社会の授業のこと話すと「珍しいね」といわれる。ファイルやTVのことが珍しいらしい。先生の書いたことをどんどんノートに書いていくというやり方を小学生の時にしていた。でもあのやり方は先生の話なんて聞く暇もないし自分で考えるなんてめっそうもない、という感じだったが今この授業だと自分で・・・・・・・・

#### 1 A Maさん

この学習をして社会の色々な裏が見えたような気がします。華やかな生活の陰には貧しい生活をしている人がいて……。誰かが得をするたびに誰かが損をしているそれが世の中だと痛く感じられました。これからこの社会で生きていくためにとても役に立つ、自分の家族を持つことになった時、きっと役に立つ事だと思いました。テキストが悪いわけではないけど普通のテキストどおりのじゅぎょうよりもとても興味を持つことが出来、楽しく授業が出来たと思います。今がどういつか見極めるのもやはり自分で、行動を起こすのも親や先生でなく自分なんだなと思い、自分でやる気・・・・・・・・

#### 1 A Oさん

一年間ビデオをみてきて、知らなかったことが多かったなと思いました。小学校で勉強してきた事は氷山の一角で中1になってそれを深めることが出来ました。鯨の事などは全く初めてで始めは意味もわかりませんでした。途中、奇形魚や輸入牛などで肉も魚も信じられなくなりました。この頃、NHKや新聞やニュースなどをよく読んだり見たりするようになりました。(まるで興味がなかったのだけど、この一年間の学習でとりあげたことなどが出てたりすると見たり調べたりするようになってきました)この学習方法は他の学校にはなくて他の中1の人たちより物知りになれていいし、日本だけでなく世界が見られる。

#### 1 B K君

この一年間、本当に燃えた！家族に現代社会の公害や日本と世界との差、ちがいetcを教える事が出来た！みんなビックリしていた。

#### 1 B A君

この一年の勉強で、何も事件のない生活の裏では 野菜の農薬の事や放射能の事など色々な問題があるのだなぁと思いました。だから、もう少し新聞とかを読んでおこうと思いました。授業ではビデオを聞きながらメモを取ったりすることが出来ずに後で友達にプリントを見せてもらったりしたので、メモを取りながらできる事を目指したいです。

## 1 B K君

最高に楽しかった。ビデオを見ながら授業をしていくというのは新鮮な感じがあってあきないし、かっこよく面白かった。レポートは地域も農業も共にあまりよくできなかった。農業は夏休みだったので遊びまくり全然やらないで失敗したと後悔しまくった。今度レポートをやる事があったら一生懸命がんばりたいと思う。それとテストはあまり良くできなかった。今回のも昨日一生懸命やったがちょっと出来が悪かった。二年生になったらもっとよい点が取れるようにしたい。この一年間で一番記憶に残ったのは水俣病です。なぜ、チッソ水俣工場はこんなひどいことをしたのだらうと思う。やってからえは取り返しがつかないが、自分の罪を素直に認め患者達に適切な手当をするべきだと思いました。地理の時間は楽しかったです。

## 1 A Kおさん

いつもはTVなどでニュースを見ていたけれどこの授業のように深く考えた事は一度もなかった。ふだんなら聞き流してしまうような事でも考えてみると「こんなにも重要な事なんだ」というのがよく分かりました。(特にチェルノブイリ、漁業)考えてみると私はあまりにもこの社会について知らなかったように思います。日本のことでさえ知らないことばかりでした、T B T Oの汚染魚のことも養殖の魚の事も・・・

だから、このことを授業でやってとても重要で大変な事なんだ、ということが良く分かりました。ふだん何気なく食べている魚の中にも汚染されているものがあったのはショックでした。チェルノブイリの原発事故のことも、少しは覚えていたし、知っていたので、人間の体をどうしてしまうかということとは分かりました。けれど、改めて勉強してみると、原子力発電所の中での作業の大変さ、放射能の恐ろしさがとてもよく分かっただけでこんなものを使うのかという疑問でいっぱいでした。でも、勉強していくうちに社会の出来事がだんだんと理解できるようになりました。

## 1 B Mさん

今年、一年の地理をやって知らないことをいろいろ知ることができました。知りたくないこともありましたが自分で知っているつもりでも知らないことも多く楽しかったです。私が社会に興味を持ったのはこれが初めてなのです。絶対にいつもは35分授業中5回はうつつらうつつらしてきましたがならなかったのです。先生も、わかりやすく説明してくださったのでよくわかりました。私は点のほうはあまり良くありませんが一生懸命がんばったのでこれからもよろしく願います。もっとビデオが見たい。

## 1 B Noさん

はじめ、社会（地理）というと、穴埋め問題や何が起こったか、ぐらいしかやらないと思っていたがここまで深く追求し、人の気持ちがわかったような気がした。まとめでどの産業についてもいえることですが「何かが起こってからでは遅い」ということがよくわかりました。農業でも、水産業でも、その他色々、予防をせず、生産または企業を第一にするため、結局、国は国民の為に何もしていません。見かけだけの民主主義です。でもそうしなければ世界についていけないのでしょうか。犠牲になっているのは国民です。私は見かけだけでなく真の事をもう少しわかって欲しいと思っています。ひょっとしたらアメリカの教授が言ったように、世界が公害で滅びるなら日本がその始めだろうということは本当に起こるかもしれない。これからも、もっとこういう勉強をたくさんして、人々の気持ちをわかってあげる人間になりたいです。社会が大好きになりました。

## 1 B Naさん

とても楽しかった。日本の社会はどうなっているか？などがわかってよかったと思います。母と父がしゃべっているときもテレビでニュースをやっているときも、やった事があるのを見かけると社会でやったから得意になれるし、もっと詳しく調べてみたくなりました。中二になってももっともっと色々な事が知りたいです。

< C >

## 1 A Sさん

私は最初、社会の勉強の仕方が思っていたのとだいぶちがうのでこまってしまったが、レポートなどはまるで新聞記者になったみたいで楽しかった。警察署までいったのかと、今思うとビックリしてしまう。自分でいろいろなことを調べるのは実にいいことだなあとと思う。また、色々な事件や国際的な問題を取り入れているのは良かった。とくに捕鯨のことは、夕食の時に家族と話し合ってみた。父と妹、私と授業参観に来た母が対決した。私はつくづく、父と妹は何も知らないなと思った。父はどうやら日本人よりもアメリカ人の味方らしい。私はそれが悔しかった。森林が消えつつあることも習った私は大人になったらWWFまたは国際飢餓対策機構に入りアフリカの人たちを助けたいと思っている。その意味でこの勉強は非常に役に立った。農業のビデオできゅうりにコルセットをしているのを見てから私はみんなに「きゅうりのきゅうちゃん」と呼ばれるようになってしまった。私も背骨が曲がっていて、コルセットをしているからだ。母も社会の勉強が役に立つことをわかってくれて嬉しい。

## 1 B Yさん

正直言って学校の地理は地理じゃない、とかつて思ってしまいました。社会といえは年号を覚えることが頭に浮かんでいた頃もありました。でも、この授業は、すごく楽しい。私たちに身近で、そしていま、どんな事が起きているか、それを知ることができてよかったと思っています。

かなりリアルな映像もあったけど、それはそれで頭の中にこびりついているので良かったかな？レポートはすごく大変だったし、はずかしかったけれど、すごく良い経験になった。もうやりたくないけどやりたい。

## 1 A Hさん

一年間地理をやってきて感じたことは「面白い」なんだかとっても地理ができるような感じになってしまうので勉強もすらすら出来ます。ビデオがとっても面白かったです。私たちの先輩がたもこうやってちりの勉強をしたのだから私もやろうと言う気持ちになるのです。私は今まで新聞にも農業にも興味などなかったのですが農業レポートをやってから毎日、新聞をめくり農業関係があるとどうしても読んでしまうのです。なんだか、とてもよくせがについて農業レポートをやってもらい、そういうよい癖がつくといいなあと思います。

### 「東北でであった農民」

石筵はすごい村だ！石筵を農文協の本で知って、自分の目で確かめるために福島県郡山郡石筵村に来てみたが、ここで「変な人に出会った」と言うのが正直な感想だ！以下にその人たちの凄さを紹介してみよう。

#### < 結婚の話 >

石筵では ほとんど例外なく恋愛結婚だそうだ。ただ、この20年間に村落内での結婚は1つもなかったそうだ。その理由はよくわからないが、Gさんによれば公民館活動が郡山市の教育委員会の主導で行なわれるようになったのがその一つの理由らしい。かつては村落の行事としていろいろと若い男女が知り合うチャンスが用意されていたようだが、公民館活動の名で学校教育の延長として学校秀才たちを郡山市内で催されるいろいろな地域の青年達と交流の場に送り出されることが行なわれ、それに批判的な意見を述べたりすることができない雰囲気がつくられていったようだ。つまり、村落の伝統的な催しから活気が消えていったのだ、どうもそれが村内での恋愛の機会を奪ってしまったようである。しかし、Gさんは、より本質的な問題として学校教育の中で成績によって人間を評価するといったことが影響しているとみている。つまり受験のための選別が行なわれていったことが影響しているとみている。つまり受験のための選別が行なわれていった学校の時の成績が知らず知らずお互いを見る物差しになってしまっているということらしい。村落の住民の目からみて優れているものが学校ではダメとなってしまっている。「物差しは学校の成績」というあまりにも一面的な人間評価が青年たちの中に尾をひいていることの結果なのだと言っている。

実際、青年たちは村落外の女性とどこかで知り合って、お嫁さんを連れて帰っているようだ。一例として、冬に彼らが近くのスキ-場で指導員などをしたりしているのも若い女性と知り合うチャンスの一つということらしい。朝、牛の世話をしてから昼間は好きなスキーとスキー指導員としての副収入と一石三鳥ということだ。一方、公民館活動をいわれるままに一所懸命やった学校秀才の青年は他の村落の異性と結婚という運びになったかといえば残念ながらそのようにはなっていないようで、まだ独身ということだ。盆踊り保存会のある酪農青年の言葉によれば、「結婚できるかどうかは個人の素質による」ということだが、なかなかの名言だ。相手が見つかるかどうかは、本人の主体的な人生観や生きざまが大切なのだという事だ。過大な借金を抱え込んでいない石筵の酪農青年らしい自信ある健康な結婚観がそこに感じられた。



酪農家Hさんによると、「おっかあが村外から来るようになった」ことの影響は、石筵のしきたりについての親達の嫁ぐ娘にたいしてのアドバイスがなされないようになって「石筵の伝統が引き継がれない」という形ででているということだ。Hさんは、くりかえし「おっかあが協力しなければ百姓は出来ない」と言った。そして、Hさんは米づくりに熱心な石筵にあっても指折りの篤農家である（かつては農薬もたっぴり使い、反あたり10俵もかつて収穫したそう）。しかし、彼は農薬散布の際に奥さんの体調がおかしくなったのがきっかけでパツリと農薬使用をやめたそう。奥さんの健康を害していく農薬の怖さを実感したからだ。（代わりに始めた有機・無農薬栽培米は田の草取りが大変な重労働だが、頑張れば反あたり7～8俵はとれるし、消費者と結びついた自由米は、高く売るので経済的にはかえってプラスであるという。）Hさんは、そのころから6人の仲間と共に有機・無農薬野菜の産直・自給も始めている。田の草取りという過酷な労働をはじめ、実に忙しい多彩な農作業をこなしている。さらに、酪農の牧野組合の組合長でもあるHさんは奥さんと長男の3人で朝5時から夏は暑いので夕方の仕事は30分ずらしてPM8:00ごろまで働いていたが、実に明るく農作業の後にも関わらず深夜まで我々に付き合ってくれる気さくさももっていて、またまた実にすごい人だと感心させられた。ただ、その彼は「おっかあが協力しなければ百姓はできない」とくりかえした。そして彼は最高の贅沢は、じぶんでいろいろなものをつくって、いろいろな本物の味を味わうことだという。これは、石筵全体についていえることで村落の人は今でも自家用の味噌は必ず自分でつくそうだし、白菜・大根などをはじめとして野菜も80%は自給で（たまねぎなどごく一部の土地にあわない野菜もある）味もうまいという評価があるそう。石筵村落には今多くの農民が失いかけている地元でつくったものを地元で消費する生活が生きている。又、彼は百姓の醍醐味は一生懸命“本物”をつくっていくことで、経済的な結果は必ず後からついて来るはずだと言う。冷害などに対しても手をかけたほうが強いとはっきりいう。彼は輸入自由化に対しても「アメリカと喧嘩するつもりはない」と言うのが続けて「アメリカでできない事、日本でしかできない事をやっていたらいいのだ」と言う。百姓の真髄はそこにあると明言した。おっかあと共に頑張ればという条件付きで、明るい展望が彼には見えているようだ。

今、Hさんの最大の心配は跡継ぎの長男に嫁がくるかという問題だ。次男は勤めに出ているが手取りで15万くらいしかないそうで、経済的には長男の方がずっと安定しているけれど、今時の若い娘が来てくれるか心配のようだった。「うちのはボヤーとしているから」と言うが、石筵の娘達は村内での結婚はしないが農家に嫁ぐものは多いそうで村落の農業生活自体は多くの農村と異なり、若者達に嫌われていないらしい。この“村落の教育力”には素晴らしいものがあるようだ。百姓の真髄を見せてやるという意気健康な農業と農民が存在する以上、それに共鳴する若い女性が出てくるのは時間の問題だと思うのは楽観的にすぎるだろうか。

この石筵の「日本の農村共通の悩みにはまり込んでいないすごさ」は過去・および最近の石筵村落のあゆみを振り返る中で学ぶ必要と価値があるようだ。

郡山市大槻町にある『自然そばの店』は、11時～暗くなるまでの営業で定休日は水曜日、メニューは1人前700円（大盛り1000円）の「ざるそば」だけ、（酒類は一切おいていない）ただし客が来てからそばを打つという風変わりな店である。看板も目立たず、

又目立たない方がいいという店である。(お土産として売っているものは養蜂家であるGさんの蜂蜜とGさんの仲間のYさんの平飼鶏の卵でそば粉は売っていない。)Gさんの妹さんが経営している店で店の奥からトントンというそばを打つ音が聞こえてきたので、ヒョイとのぞいてみると先ほどまで店の隅で椅子に寄りかかって居眠りをしていたおばあちゃんが手馴れた手つきでそば粉をこねて、棒状のもので薄い大きな円盤状にのばしているところだった。さらに実に鮮やかな手つきでそれを見る見るうちに刻み、細いそばに打ち上げてしまった。石筵の伝統文化ここにありといったところである。

このそば屋は、Gさんが本物の味をそして本物の栽培を広げる為に大槻町に開店したのだそうだ。Gさんの仲間のHさんによると、馴染みの客や遠くからの評判を聞いて食べに来るお客はいるのだけれども値段が高いせいか、お金持ちの客しか来ないような状態になりかかっているの、Gさんは手間をかけるとどうしてもその時間分は高くなりがちだし、かといって馴染みの余裕のある人たちにだけグルメを楽しんでもらうのでは初志とずれてしまうのでどうしたものかと戸惑っているようである。脱サラの妹さん夫婦とともにどんな方向を今後打ち出すか楽しみである。

#### 日本農業を考える 活用したVTR教材の映像

- 1) VTR「今、野菜が危ない」(なんとって好奇心：フジTV 1987)
- 2) VTR「それでもあなたは食べますか？」(全国農村映画協会)
- 3) VTR「今、ビニールハウスの中で」(NHK特集 1986)
- 4) VTR「輸入野菜と流通資本の支配(アスパラガス etc)」(TBS特集 1988)
- 5) VTR「87米酷(米つぶしの企み)」(全国農村映画協会)
- 6) VTR「都会の農業(偽装農地)」(TV朝日ニュースステーション 1987)
- 7) VTR「都市農業と土地税制」(TV神奈川 1988、提供：農協)
- 8) VTR「大潟村...日本の村は生き残れるか？」(TBS特集 1987)
- 9) VTR「大潟村のようす」(現地取材した編集フィルム)
- 10) VTR「土は生命を歌う(ヨーロッパ農業と日本)」(全国農村映画協会)
- 11) VTR「21世紀は警告する(ランドレース etc 食糧と養豚)」(NHK特集)
- 12) VTR「牛肉輸入自由化問題」(TBS特集)
- 13) VTR「破産(ある畜産農家の光と陰)」(日本TV特集 1988)
- 14) VTR「北の大地に見た夢(ゴールなき拡大の道)」(NHK特集)
- 15) VTR「根釧・別海町・新酪農村」(現地取材した編集フィルム)
- 16) VTR「価格の優等生 卵(誰が増羽しているのか)」(TV朝日Nステーション)

以上

## 二年生になって農業について思うこと（四月）

### A君

ぼくはもともと社会はあまり好きではありませんでした。みかんの生産が1位2位3位はどこかとか暗記問題しか(?)なかったからです。でも中学になってから好きな科目になりました。そのわけの一つは、農薬について触れたからです。元々そういうことに興味を持っていたからです。オレンジ・レモンなどはあんなに薬べったりとは知りませんでした。(あれっきりオレンジは食べなくなった。)でもあんなに農薬がついてもスーパーとかに並んでいるということは国があまりすぎるということではないかと思う。国がいろいろな農業の基準を作り、ちゃんとしたチェックを行いそれに違反したら罰金など厳しくしないと、未来は外国のとうもろこしなどを食べさせて奇形になってしまった猿と同じことが人間にも起こると思う。だからといって国だけのせいにははいけないようだ。なぜなら、私たち消費者が見栄えの良い物を選んで買うから農家の人もしょうがなくそうしているだけかと思えないからです。

### Bさん

私は中学にはいるまでは本当に農業について何も知りませんでした。でも、一年間勉強している内に日本の農業は大変な方向に向かっている事を知りました。どんな点が大変か、挙げてみると昔のような無農薬野菜はほとんどなくなっていることや農家が減りつつあり、日本人の食べるものが日本で作られたものではなくなっていくなどです。私がレポートで農家にインタビューに行ったとき、「農業は手間の割に収入がほとんどない。」という意見を聞きました。これも農家が減っていく一つの原因だと思います。あと農家には嫁不足の問題があります。農業は会社と違って決まった休日もなく365日ほとんど働かなくてはなりません。そうして苦労しても収入は少ないときたら私だっていやです。いったい日本の農業はどうなるのでしょうか？

### Cさん

野菜やお米をつくって農業をやっている人たちは、レポートやって思ったのだけどなんだか不思議な魅力がありました。私は今、家で犬を飼っていますが、飼い始めの頃は何か食べたいとか気持ちが嬉しいのか悲しいのかよくわからなかったけれどずっと長く飼ってきたから今は、何をしてあげればこの子は今幸せなのかということがピンと来るのです。お百姓さんも作物と長く付き合っているのだから、米や野菜について色々わかると思うので幸せなものを私たちに届けていただきたいなと思います。

### Dさん

農業のほとんどがそうだけど、何でも勝手に政治家たちが決めすぎると思う。輸入の事とか土地の事とか。

私は、この間(春休み)に友達と山下埠頭の野積み野菜を見てきた。TVでも報道されたから、だいぶ外でほったらかしてあるのは減っていた。その代わり港湾局が作ったと言う倉庫には山ほど色々な段ボールがあった。そこはゴミ捨て場よりすごい臭いがした。港

湾局の人に質問してもあいかわらず、答えになっていないし、これじゃあいつまでたっても倉庫の中はこのまま変わらないなあと考えた。「あの倉庫は夏は臭すぎて入れない」と聞いてぞっとした。そして、缶に入っていた竹の子の水煮もさびがたくさん落ちているし、鼻がひん曲がりそうな臭いでまたもぞっとした。それでその竹の子の缶には“ダイエー”と書いてあったので絶対ダイエーでは買うまいと思った。

私たちに説明してくれる人の中に税関の人がいて、その人はとても親切で名刺までくれた。この人は何でも教えてくれるので今度の一年生が農業レポートで調べるんだったら、港湾局なんかには聞かず、この人にいろいろ聞くと良いと教えてあげてください。

### Eさん

農業には今いろいろな問題があると思います。レモンや山菜の輸入や米の自由化、農業問題、後継者問題、機械を買って借金などさまざまです。私が特に興味を持ったことは輸入のレモンや山菜などがドラム缶に保存され、雨ざらしや腐ったレモンの野積みとかでした。授業でやってもっと深く知りたかったので文化祭で「今、野菜が危ない！」と言うのをやりました。その目的はみんなに安全なものを食べてもらいたかったからです。特に、おかあさま方には輸入のレモンレモンを食べないでくださいといい、有機野菜専門の店などを紹介しました。今思うと生徒には面白くなかったかもしれないけれども、お母さんたちに役立つような気がします。そして今野菜が危ない！ということも伝わったような気がします。また、私はその後、絶対レモンや山菜は食べないようにしています。野菜も一応気をつけてはいますが、中々全部有機や無農薬というわけにはいきません。

### Fさん

私は農業には関心がありませんでしたが、農業レポートを書き始めてから興味を持ち始めました。私の家は渋谷の駅の近くにあるので畑や田などがなかったので困りました。ファイルを見ていると世田谷に住んでいる大平さんという方を見つけました。私は大平さんのところへいろいろとお話をうかがいに行きました。そのお話の中で今でも印象に残っているのは、大平さんが無農薬野菜を始めたきっかけです。大平さんをご両親を2人とも農薬のせいで亡くしたとっていました。ご自身も目と耳を悪くしたそうです。だから怖い農薬を使わない農業を始めたと言っていました。私はこういう方がたくさん出てくるといいなと思いました。

### Gさん

私の家に最近グレープフルーツが届きました。そのグレープフルーツはOPPの肪カビ剤が入っていて表面の皮はピカピカでした。私の家では低農薬、無農薬のものを食べるようにしています。果物なんかもなるべく国産のものを使用しています。私の場合、中1の地理で農薬や輸入物などについて詳しく勉強するまでは自分の体に毒だとか、とにかく食物についてあまり興味もなく、そして全然知りませんでした。自分の家では低農薬か無農薬のものを食べている事は知っていましたが普通に野菜との違いはともかく人体に対する影響すら知りませんでした。耳にした事はあっても、左から右に通り返けてすぐ忘れていました。しかし、中1で詳しく勉強してからは農業について、特に輸入物について興味を

持ち始めました。自分にとって身近な問題なので中1の授業はとても興味深いものでした。また、楽しくできました。

## H君

先日、新聞で読んだ「米の自由化問題」が僕には一番気になることです。輸入すれば日本は安さで負けるし、政府は電気製品や自動車などの貿易摩擦の関係があるかぎり自由化した方がいいし、・・・そんな事が僕は一番気になりました。

あと、一番奥が深いと思ったのが農薬問題ではないかと思いました。いっばいまけば高く売れる(聞いた話では何倍も違う)し、かといってききすぎれば人体への影響があるし、でも僕は消費者も悪いと思います。より形の良いものばかりを選び、味で見分けないからだと思います。町田東急の無農薬コーナーができました。お米はいつもそこで買うのですが、やはり高く5kg = 4900円で普通の二倍もするのでお母さんは「高いわねー」といつも言っています。

## I君

農業は減反などのことですごく困っていると思う。農業レポートで行った所では、減反のところは水を入れていたけれどそういう土地はもったいないと思った。農薬などは使っていると病気になる人がいるのもっと減らしたほうがいいと思う。外国からの輸入は、輸出するのに危険な薬を使っていたのでちゃんと検査して欲しいと思った。

## Jさん

今、農家も消費者も政府も困っていると思います。農家は作ったものをもっと高く売りたいと思っているし、消費者は高いとか安全にとか叫んでいます。それを政府はどう解決するか困っています。私の親戚が農業をやっています。第一種か第二種か知りませんが兼業農家で、土地を貸したりアパートなどを経営しています。しかも、農業を全てになっているのは80歳のおばあちゃんです。その人がいなくなったらもうその家の農業はできないのです。そんな中で、私たち消費者はどうすればよいのでしょうか？

## Kさん

去年やった農業レポートでのある農家のインタビューで「農業の技術を覚えるのが大変だった」とか「かん水施設がまだまだ」と言う声を聞きました。また「まわりに住宅が立ち並んで公に薬をまけなくなった」とかも。農業にはいろいろな問題があるようです。

今、日本で農業をやっている人の人口が減っているという話を聞くけれど、これからもどんどんへってってしまうのでしょうか？農業が抱えている問題の中に農業をやりたいくないということの理由があるような気がします。私としてはこのまま農家が減ってしまっただけでは困ると思うのですが・・・。

もう一つ、薬漬けの農業が増えれば増えるほど被害が広がります。作る側も食べる側もです。どちらの側も早く作り食べるとするのが理想だと思います。無農薬で作ってもあまり売れないから、仕方なく農薬を使ってしまう事があるようです。つくる側がそのため薬によって害を被ったり・・・。また、無農薬の野菜が食べたくても、ついつい手ごろなスー

パーなどで買ってしまったり、双方に食い違いみたいなものがあるのではないのでしょうか？その食い違いが解ければ（みんなが安全性を求めるようになったら）楽しく野菜作りができるようになると思います。少しずつ、農薬を見直すのと同時に農業も見直すことができれば農家の減少は防げると思います。

### Lさん

今の農業を営んでいる人たちの苦勞を私は知りません。どの位大変かというのは学びましたが、その人たちの立場になってどの位大変かは知らないのです。私から見ると「ああ、大変だなあー」と思うのですが、農家の人たちにとっては「ああ大変」なんていってられないくらいの窮地に立っていると思います。だんだん農家だけでは生活していけなくなってしまい、他の仕事をしなければいけません。急に他の仕事をするのは大変だと思います。農家の方々はきっと農業が好きだと思います。そういう人たちがいるから私たちがいるというのに、世の中では食物の供給をしてくださる方々を窮地に立たせているのです。これでは日本の自給率がますます低くなってしまいます。せめて主食（米）だけは守らなくてはならないのです。なのに、世間では供給してくれる人たちの立場をどんどん狭くしていっています。これでは自分の首を自分で締めているようなものです。もう少し、農家の人たちをいたわる政治をして、そういう世の中にして欲しいと思います。

### Mさん

日本の農業は勉強する前はもっと盛んだと思ってました。ところが、農業をやっている人は少なく、そしてだんだん辞めて都会に出てきていることを知りました。そして、その野菜も農薬がたくさん使われていて、とても危険だということもわかりました。でも、言われなければ気が付かないし、その味に慣れてしまっています。また、言われても野菜や米は欠かせないものであり、それらを食べなければ生活していけないというのが事実です。

でも、農薬を使わないと売上が下がるのでやめない人が多いし、それに対して文句を言う人も数少ないのです。

農薬で病気になった人もいます。でも、その他の人は自分に関係のないことです。わざわざ立ち上がるはずがありません。こうやってどんどん時間が経ってそのうちその人たちにも農薬による影響が出ると思います。私たちはもう農薬を使った野菜の味にもう完全に慣れています。だから勉強する前は何も感じませんでした。でも、ビデオでジャンジャン農薬をかけているのを見て驚きました。でも、薬を使わなければ、野菜は虫だらけになるし、買って来た野菜も虫だらけになるのです。だから農薬を使わないと野菜が売れないことはよくわかります。私は、農薬はこれからもどんどん使われさらに量も多くなると思います。

### Nさん

私は農業は好きではありません。なぜなら、農業は土や農業で汚れるからです。日本の農業は外国からの輸入によって少し衰えていると思いました。私が思うには将来日本農業は多分なくなってしまうのではないかと外国の輸入だけに頼ってしまうと思います。

農薬は体には害ですが、作物を育てる上では仕方がないことだと思います。農薬がなく

ては育つ作物も虫にやられて売り物にもならなくなってしまうからです。しかし、適量を考え、なるべく少なくしてもらいたいです。無農薬で売っているものもあるのに、なんで農薬を使うのかわかりません。農業レポートでも農薬は使わなくては作物は育たないと聞いたのに……。でも、無農薬といっても、どこかで使っていると聞きました。少しでも使っているのなら、無農薬といわないで欲しいと思いました。